

会社近況報告会

2022年5月24日

【証券コード:9959】

ASEED

「ASEEDING THE FUTURE」

人、地球、未来—すべての笑顔と健康のために



アシードホールディングス株式会社
代表取締役社長 河本 大輔

新型コロナウイルス感染の状況を踏まえ、皆様および当社関係者の健康と安全を第一に考慮し、出席者を限定させて頂くと同時にZoomウェビナーでの配信によるハイブリッド開催と致しました。今後もIR活動の充実に努めてまいりますので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大に対する取り組みについて

当社は、政府および地方自治体の指導のもと『取引先および従業員の皆様の生命、健康、安全』を最優先し、感染リスクの低減する策を実行しつつ、『農林水産省の食品産業事業者への事業継続に関する基本的なガイドライン』に基づき、飲料の安定的な供給と重要な社会インフラである自動販売機の運営継続を維持してまいります。

説明のポイント

- ① コロナ禍において、自販機運営リテイル事業は厳しい状況が続く中、飲料製造事業が牽引する結果となった。自販機運営リテイル事業については、事業会社2社の合併による構造改革の実行と更なるM&Aの強化によって成長軌道にのせる。飲料製造事業は、引き続き受託製造事業における商品企画力と製造ラインの新設による更なる拡大を目指す。
- ② 2022年3月期決算の状況は、売上高は約△46億円の大幅な減少になったが、「収益認識に関する会計基準」の適用による影響を除けば、約15億円の増収。経常利益については、コロナ前を上回り20年間で最高となった。但し、自販機リテイル事業に係る減損などにより、当期純利益は前年同期△41.3%の1億7千8百万円となった。
- ③ 中期経営計画において、自販機リテイル事業の構造改革とM&Aによるグループ強化、新規事業・海外事業の強化による成長を加速させる。2025年3月期を最終年度とする中期経営計画で、売上高約300億円、経常利益15億円を目指す。

本日の内容

I. 事業概要

II. 前期決算概況と今期通期見込

III. 成長戦略

●商号 アシードホールディングス株式会社 (ASEED HOLDINGS CO., LTD.)

●所在地 広島県福山市船町7番23号

●設立 1972年11月20日

●代表者 代表取締役社長 河本 大輔

●資本金 7億9,847万円

●従業員数 579名 (グループ)

●事業所 (グループ)

本社 広島県福山市船町7番23号

国内支店営業所 全国主要都市44カ所

工場 宇都宮飲料工場 (栃木県下野市)
志和飲料工場 (広島県東広島市)

物流拠点・環境事業拠点 5カ所

駐在員事務所 ベトナム (ホーチミン市)

●連結子会社

アシード株式会社 (広島県福山市)

北関東ペプシコーラ販売株式会社 (群馬県前橋市)

アシードブリュエ株式会社 (広島県福山市)

宝積飲料株式会社 (広島県東広島市)

アオンズエステート株式会社 (広島県福山市)

ロジックイノベーション株式会社 (岡山県岡山市)

●持分法適用関連会社

HaLong Beer And Beverage Joint Stock Company ベトナム (ハロン市)



東証の市場区分再編により、スタンダード市場を選択しました。
2022年4月4日より移行

	スタンダード市場 上場維持基準	当社の数値
株主数	400人以上	2,999人
流通株式数	2,000単位以上	37,870単位
流通株式時価総額	10億円以上	18億6,749万円
流通株式比率	25.0%以上	28.0%

(2021年6月30日移行基準日時点)

グループ企業理念

「明日(A)へ向けてまく種子(SEED)」は、自然と環境に感合して、果実を結びながら安定した良樹に成長する。我々は、因果律を基本とし、道義と知行合一の経営に努める。最良の品質と真心をもって、お客様の満足を追求し、人の健康と幸福を通じて豊かな社会の実現に貢献する。

グループ・ビジョン

「ASEEDING THE FUTURE」
人、地球、未来—すべての笑顔と健康のために

アシードグループは、人、地球、未来がもっと笑顔で健康になるために、その思いを込めた種をまき続け、実現に向けて貢献しながら、日々成長を遂げていくことを宣言します。

- ①飲料・食品を通じて、笑顔と潤いに溢れた健康な生活シーンを提供します。
- ②生き生きと笑顔で働き、豊かで健康な人生を送ります。
- ③未来のために地球と調和した持続可能な成長を続けます。

50周年を機に刷新



グループ・ミッション

バランスある企業価値の最大化

- 事業価値** 時代の要請と顧客ニーズにあった、すぐれた技術、製品及びサービスを提供し、社会の便益を図り生活者とともに真の豊かさを実現する。
- 人間価値** 人間尊重と人材育成を基本とし、社員の福祉向上と能力開発に努力し、働く個人に自己実現の場を提供する。
- 社会価値** 自然、人類や社会の持続的・調和的な発展に貢献するため、市民社会のよき一員として積極的にその役割を果たす。
- 資本価値** 組織の総力を結集して行動し、明日の事業活動(収穫)のための利益(種子)確保し、企業存続と変革に要する未来費用として必要な付加価値の増大に努力する。

- 
- 2022年4月** 東証の市場区分再編により、スタンダード市場を選択
- 2021年7月** ロジックイノベーション株式会社(現・連結子会社)の株式を取得
- 2021年6月** 連結子会社の北関東ペプシコーラ販売株式会社が株式会社いいじまの株式を取得
- 2020年10月** 連結子会社のアシード株式会社が有限会社大邦食品の株式を取得
- 2019年9月** 栃木県下野市の物流倉庫(アシード ロジスティクスセンター)を取得
- 2014年7月** ベトナムのHaLong Beer And Beverage Joint Stock Companyの株式を取得し、持分法適用関連会社とする
- 2011年4月** 宝積飲料株式会社の株式を取得し子会社化
- 2008年10月** アシード株式会社をアシードホールディングス株式会社に商号変更し持株会社制へ移行
自販機運営事業を株式会社バンデックスへ承継
株式会社バンデックスをアシード株式会社に商号変更
- 2008年8月** アオンズエステート株式会社を設立
- 2004年4月** 三吉酒造場をアシードブリュー株式会社に商号変更
北関東ペプシコーラボトリング株式会社の飲料製造事業をアシードブリュー株式会社に統合
北関東ペプシコーラボトリング株式会社を北関東ペプシコーラ販売株式会社に商号変更
- 2001年2月** 東京証券取引所 市場第二部上場
- 2000年11月** 株式会社三吉酒造場の株式を取得し子会社化
- 1999年2月** 北関東ペプシコーラボトリング株式会社の株式を取得し子会社化
- 1993年12月** 店頭市場に株式公開
- 1989年6月** アシード株式会社に商号変更
- 1972年11月** 日本バンテン株式会社 設立

アシードホールディングス株式会社

2022年10月合併予定

2021年7月買収



アシード株式会社



北関東ペプシコーラ
販売株式会社



アシードブリュー
株式会社



宝積飲料株式会社



アオンズエステート
株式会社



ロジックイノベーション
株式会社



株式会社いいじま
2021年6月買収

持分法適用関連会社
HaLong Beer And
Beverage
Joint Stock Company

自販機運営
リテイル事業

カップ飲料、缶・ボトル飲料、紙パック飲料、スナック等を販売するスマートストアの管理・運営・保守を行うほか、コーヒー飲料等の総合サービスシステムを提供いたします。

飲料製造事業

炭酸・コーヒー系飲料の製造、アルコール飲料の製造と販売を行います。OEM、ODM、自社ブランドの製造を行っています。

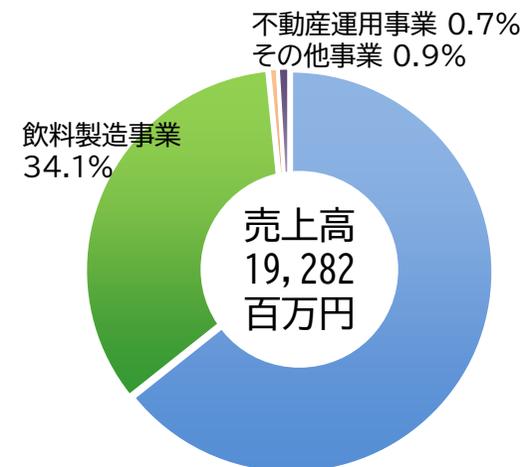
不動産運用事業

グループの所有不動産を中心に、オフィスビル、商業施設などを開発し、テナントへ賃貸するなど不動産を経営資源として有効活用や効率管理を行います。

その他事業

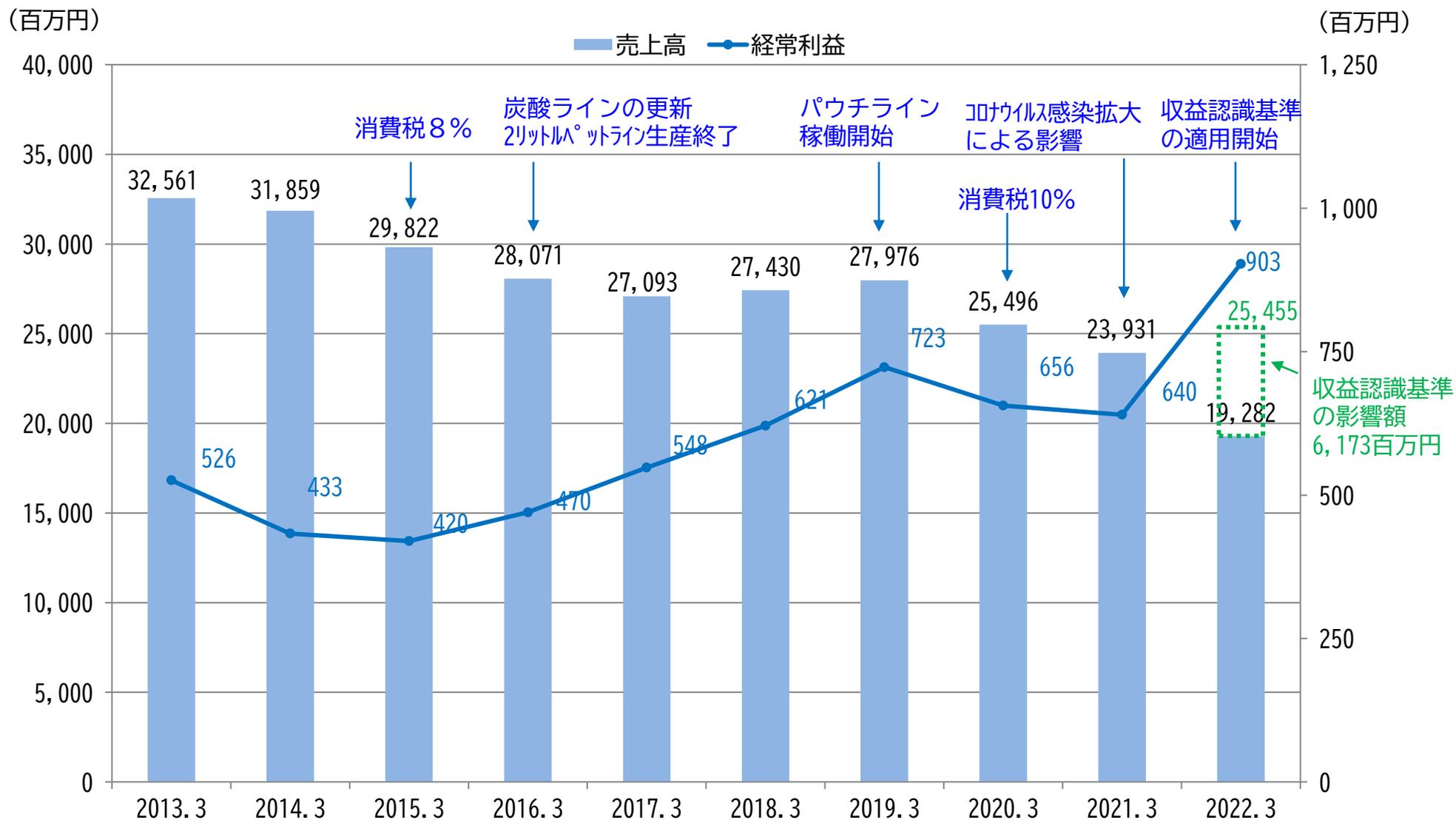
物流・倉庫事業や、産業廃棄物を再利用する環境事業を含みます。

<売上構成比>



自販機運営リテイル事業
64.3%

● 過去10年の売上高・経常利益推移



本日の内容

I. 事業概要

II. 前期決算概況と今期通期見込

III. 成長戦略

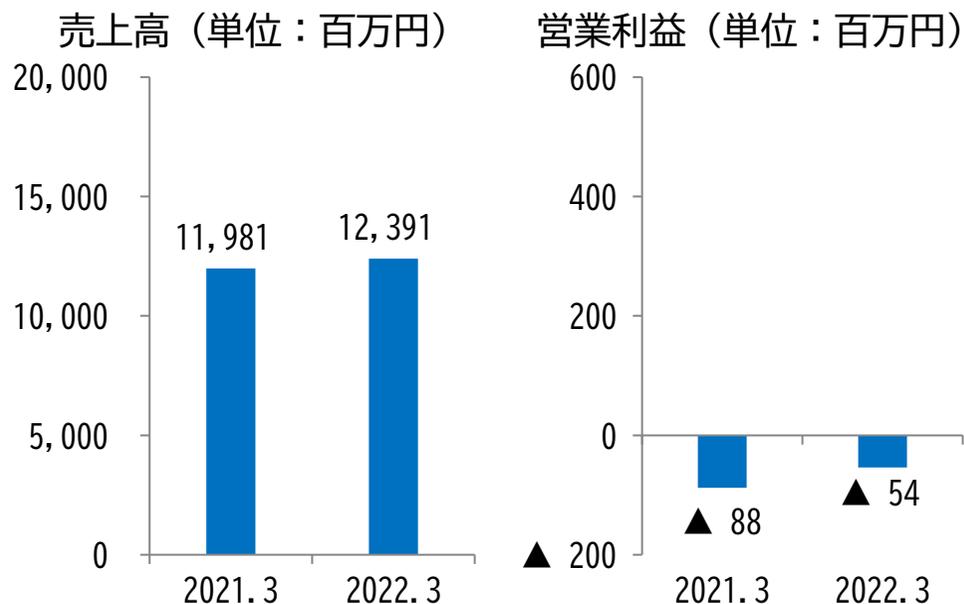
売上高の減少の主な要因は、新型コロナウイルスの感染拡大による自販機運営リテイル事業のマイナス及び収益認識基準の適用によるマイナスによるものです。当期純利益減少の要因は自販機等の減損処理、繰延税金資産の取り崩しを実施したことによるものです。

	2021年3月期	2022年3月期	増減額／率
売上高	23,931百万円	19,282百万円	△4,648百万円 / △19.4% ※収益認識の適用 △6,173百万円
営業利益	429百万円	647百万円	217百万円 / 50.7%
経常利益	640百万円	903百万円	263百万円 / 41.1% ※雇用調整助成金 69百万円 (2021年3月期は 157百万円) ※持分法投資利益 122百万円 (2021年3月期は 74百万円)
親会社株主に帰属する 当期純利益	304百万円	178百万円	△125百万円 / △41.3% ※減損損失 △251百万円 (自販機等リース資産237百万円のれん13百万円等) ※繰延税金資産取崩 △137百万円

●自販機運営リテイル事業

売上高	12,391百万円 (前年同期は11,981百万円)
営業利益	△54百万円 (前年同期は△88百万円)

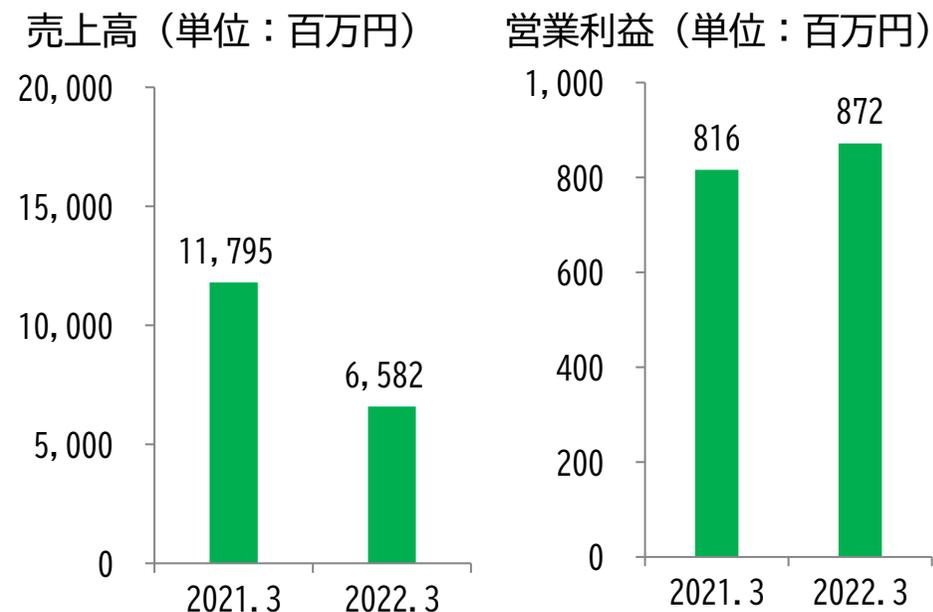
- ・前期から回復はしているが、収益面では厳しい状況が続いている。収益認識に関する会計基準等の適用により、売上高が331百万円減少した
- ・行動制限の解除などによる売上の回復とルート効率の改善など徹底したコスト削減を実施により利益は回復基調



●飲料製造事業

売上高	6,582百万円 (前年同期は11,795百万円)
営業利益	872百万円 (前年同期は816百万円)

- ・OEM/ODMは大手ブランドメーカーの厚い信頼を得て、着実に伸長。パウチ商品の製造数も増加傾向
- ・収益認識に関する会計基準等の適用により、売上高が5,842百万円減少した
- ・コンプレッサーの高効率化など使用エネルギーの削減など徹底した製造コストの見直しを継続し収益力を強化

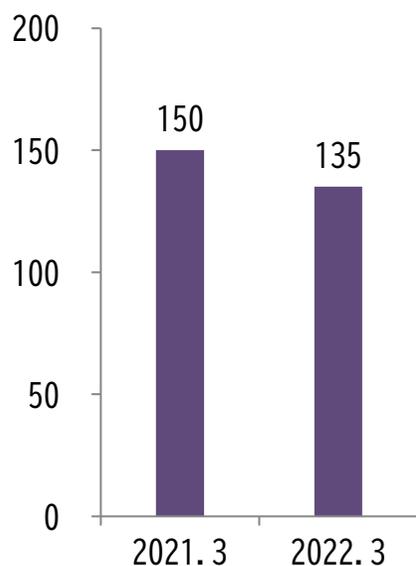


●不動産運用事業

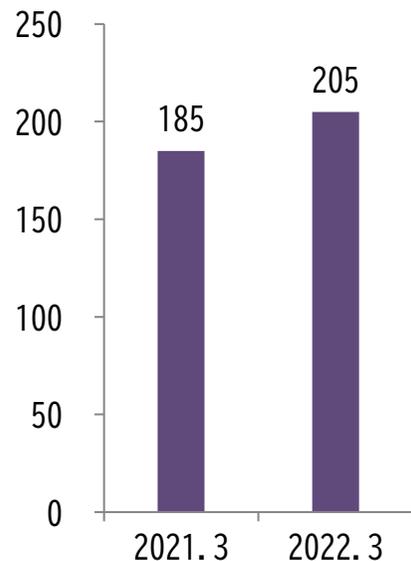
売上高	135百万円 (前年同期は150百万円)
営業利益	205百万円 (前年同期は185百万円)

- ・セグメント間の内部売上高218百万円を含めると354百万円

売上高 (単位：百万円)



営業利益 (単位：百万円)

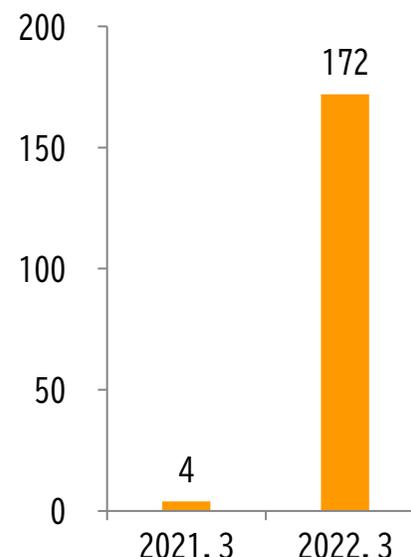


●その他事業

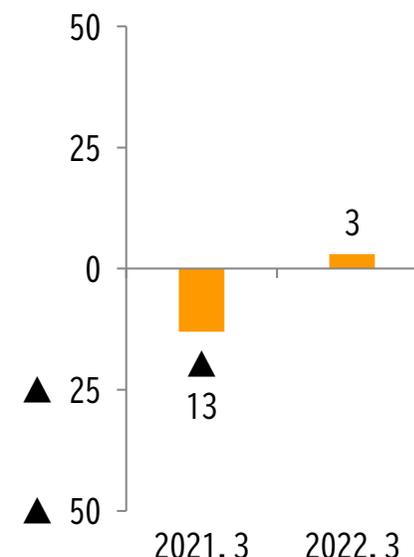
売上高	172百万円 (前年同期は4百万円)
営業利益	3百万円 (前年同期は△13百万円)

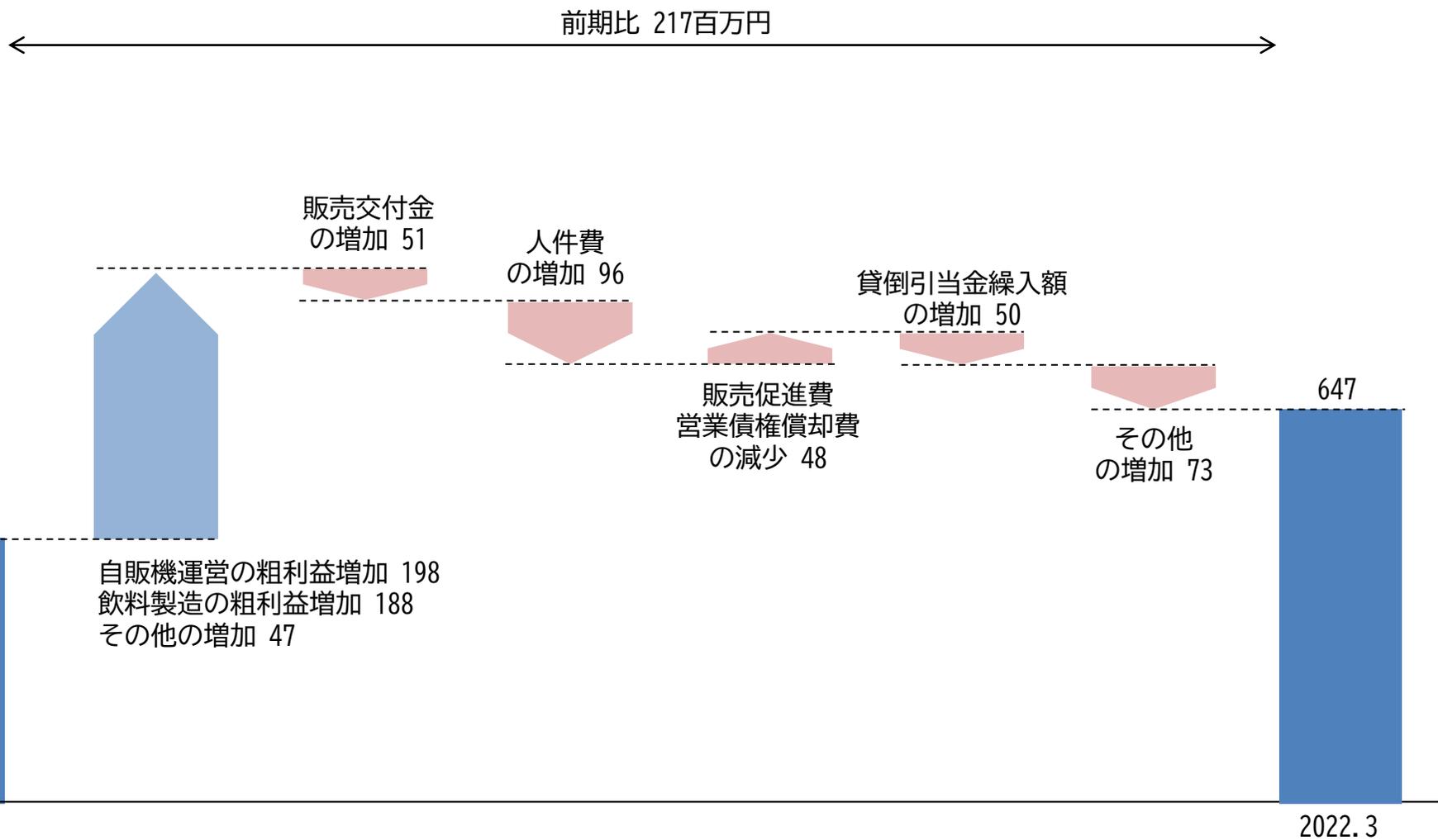
- ・2021年7月に子会社化したロジックイノベーションの物流部門の引き合いが増加
- ・2021年10月よりアシードロジスティクスセンター(栃木県下野市)の運営も担う

売上高 (単位：百万円)



営業利益 (単位：百万円)





(百万円)

●連結貸借対照表 要旨

(単位：百万円)

科 目	2021.3	2022.3	増減	科 目	2021.3	2022.3	増減
資産の部				負債の部			
流動資産	5,262	5,531	268	流動負債	7,257	7,678	421
固定資産	9,337	9,581	244	固定負債	2,006	2,330	324
有形固定資産	7,497	7,685	188				
無形固定資産	139	156	16				
投資その他の資産	1,700	1,739	39				
				負債合計	9,263	10,008	745
				純資産の部			
				株主資本	5,784	5,512	△272
				その他の			
				包括利益累計額	△448	△408	40
				新株予約権	0	0	△0
				純資産合計	5,336	5,104	△232
資産合計	14,599	15,112	513	負債純資産合計	14,599	15,112	513

資産 … 前期比513百万円増加

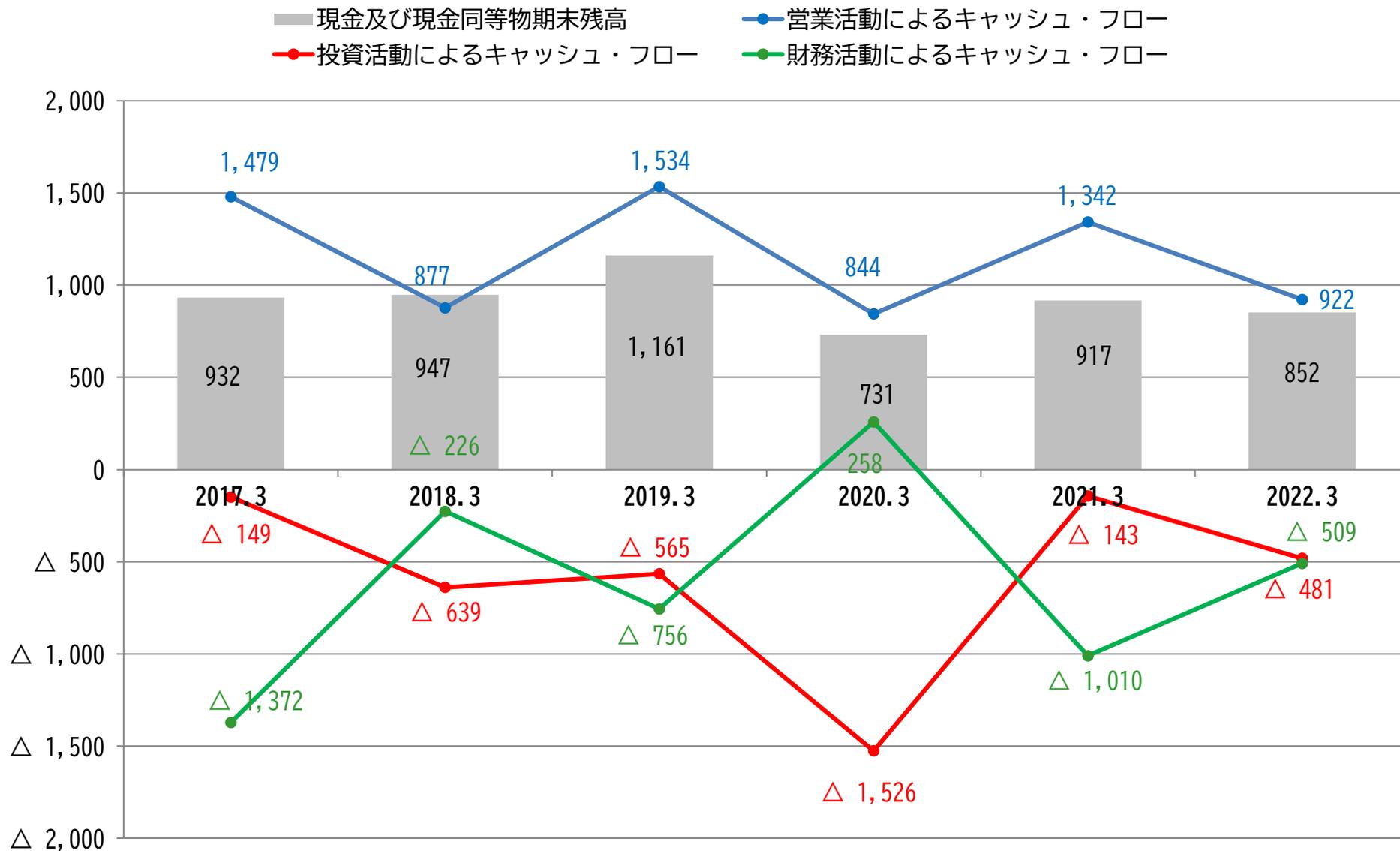
受取手形及び売掛金	320
建物及び構築物	132
機械装置及び運搬具	208
リース資産	△375
建設仮勘定	180
投資有価証券	173
繰延税金資産	△139

負債 … 前期比745百万円増加

買掛金	293
短期借入金	360
未払消費税等	△164
長期借入金	459
リース債務	△161

純資産 … 前期比232百万円減少

当期純利益	178
剰余金の配当	△148
自己株式の取得	△322



新型コロナウイルス感染拡大を受けた人流の抑制は解除されるものの、来日客を見込んでいる観光・レジャー施設の低迷やテレワーク定着によるオフィス内需要減退の影響を受け、自販機運営リテイル事業における販売数量の大幅な改善は見込みにくい状況が続いています。飲料製造事業は資材・原材料高、電力・燃料費の高騰で予断は許さないものの、適切な価格転嫁を実行しながらODM営業の強化と安定的・効率的な生産体制の構築に取り組んでまいります。

	2022年3月期 実績	2023年3月期 業績予想	増減額／率
売上高	19,282百万円	20,000百万円	717百万円 / 3.7 %
営業利益	647百万円	820百万円	172百万円 / 26.7 %
経常利益	903百万円	920百万円	16百万円 / 1.8 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	178百万円	600百万円	421百万円 / 236.0 %

本日の内容

I. 事業概要

II. 前期決算概況と今期通期見込

III. 成長戦略

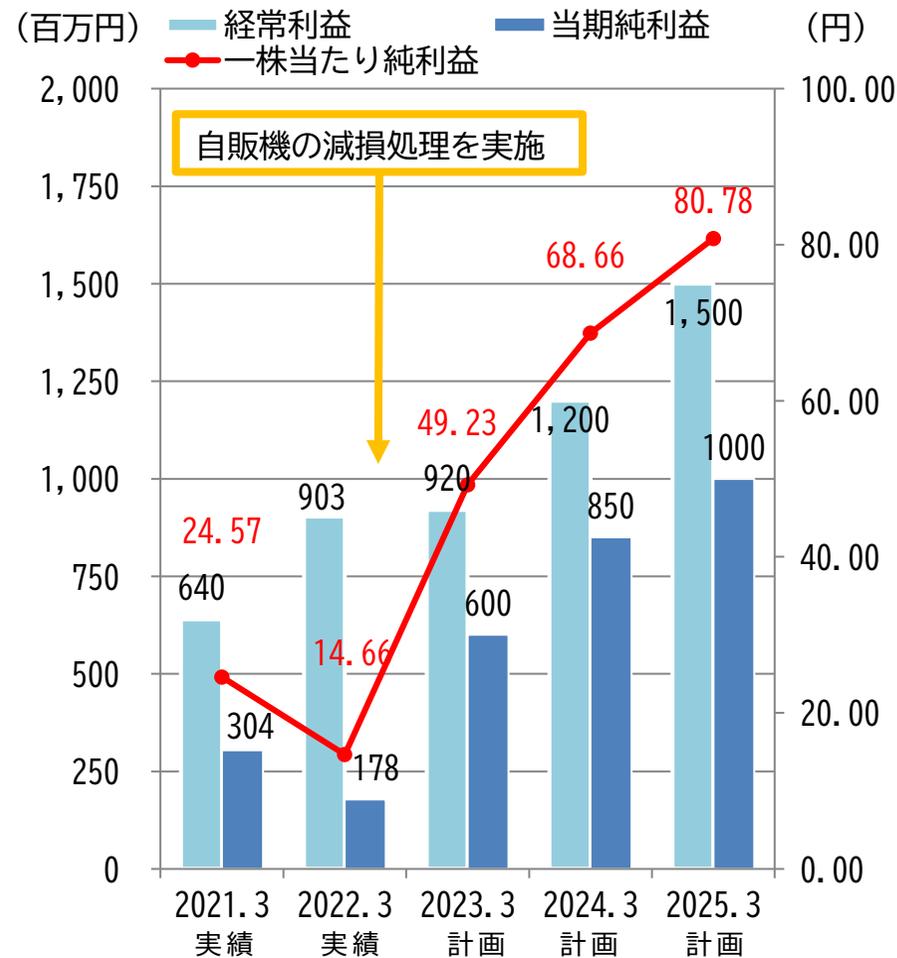
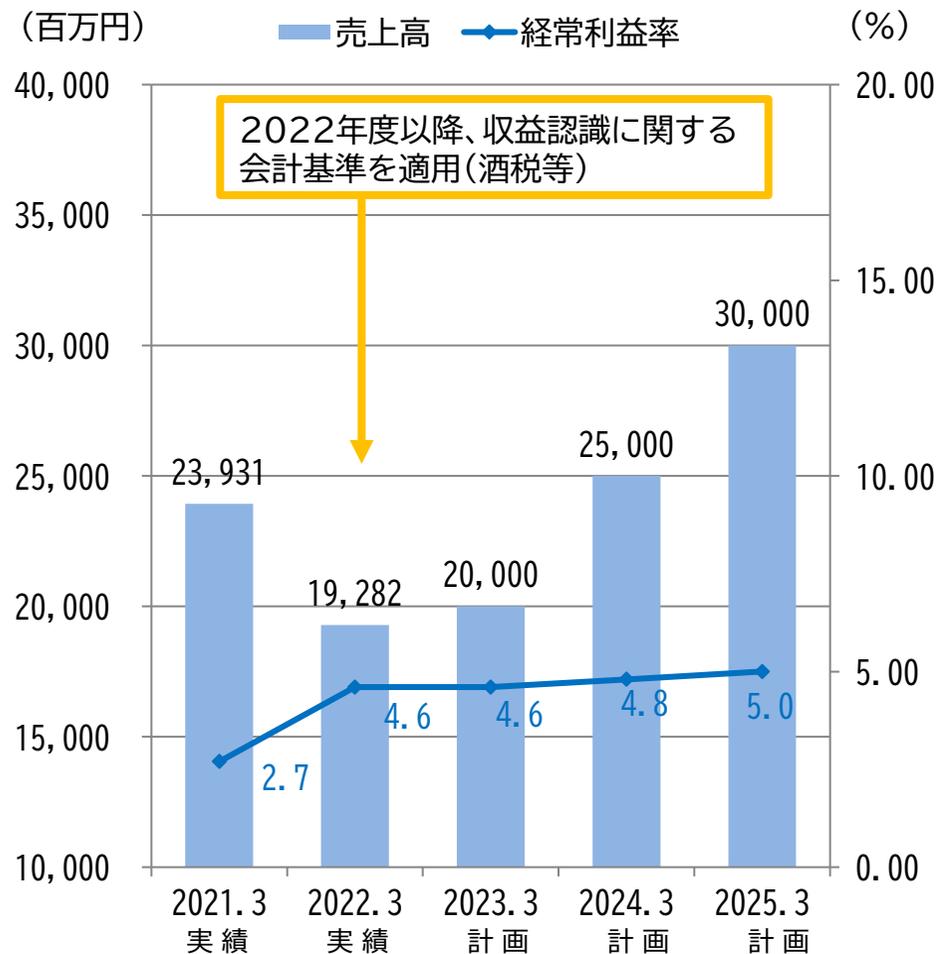
今後3年間で新規投資を実施

売上高 300億円

経常利益 15億円

経常利益率 5%

当期純利益 10億円



財務健全性

事業投資が可能な
財務基盤



資本効率

良き投資の対象と
なる資本効率



資産効率

同業でトップクラスの
資産効率



株主還元

安定性、継続性を
考慮した株主還元



※は2022年3月期実績

● 配当政策

- ① 今期は1株当たり年14円普通配当と50周年記念配当2円
合計16円を予想
(配当利回り 2.9% 株価550円の場合)
- ② 内部留保はM&A、海外投資、飲料設備等に優先的に充当
- ③ 配当性向30%程度を基準に中長期的な増配基調を目指す

	2020.3	2021.3	2022.3	2023.3予想
1株当たり 配当金	12円	12円	12円	16円 普通配当14円 記念配当2円
配当性向	42.0%	48.8%	81.9%	32.5%

● 株主優待

- 100株以上保有の株主様にクオカードを贈呈
- 100株以上： 500円相当クオカード
- 500株以上： 1,000円相当クオカード
- 1,000株以上： 2,000円相当クオカード
- 2,000株以上： 3,000円相当クオカード



● 自己株式の取得

コーポレートガバナンス・コードの要求事項を踏まえ政策
保有株式の縮減を望む企業株主が増加したことに加え、資
本効率の向上を図るとともに、資本政策の再構築を目指す

2021年12月6日 648,900株取得

1. ブランド創造企業への挑戦

- ・ 自社ブランドの開発・販売強化

2. 自販機運営リテイル・飲料製造の既存事業の再構築

【自販機運営リテイル事業】

- ・ 事業会社2社の合併と更なるM&Aの推進
- ・ 自販機を「機能性・ウェルネス商品」に転換

【飲料製造事業】

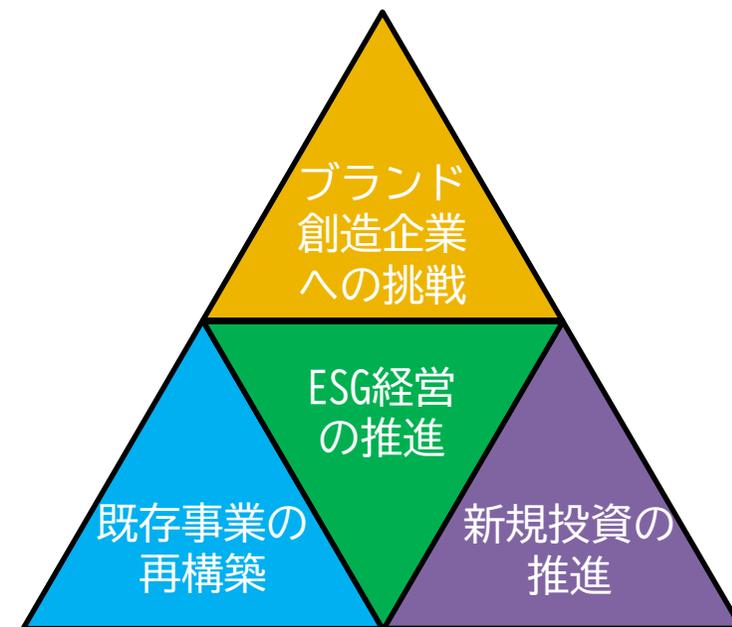
- ・ 原材料・資材、燃料費の高騰に対応した迅速な価格転嫁
- ・ 炭酸ライン（宝積飲料）の設備新設
- ・ 飲料製造の同業者ネットワークの推進

3. 新規事業創出やシナジー創出のためのM&Aの推進

- ・ 物流事業の強化
- ・ 自販機運営リテイルや飲料製造に次ぐ第3の柱づくり
- ・ 食品業界を中心に新規投資の実行、海外事業への投資

4. ESG経営の推進

- ・ 環境・社会・ガバナンスに対する活動をグループ全体で推進



● ノンアルコール飲料3種類
(2021年9月10日発売)

国民的人気の高いアルコールである「ハイボール」や「スパークリング ワイン」を市場では珍しいノンアルコール飲料として商品化しました。

<ハイボールテイスト>



<スパークリング ワインテイスト>



【赤】カベルネ・ソーヴィニオン



【白】シャルドネ

● 大容量エナジードリンクDEAMON(デーモン)
(2022年2月9日発売)

エナジードリンク主要成分に加え、眼精疲労を軽減されると言われるアントシアニンをブルーベリー約5倍多く含むビルベリーのエキスを配合しています。
商品名の「DAEMON」(デーモン)とは、ギリシャ神話に登場する守護神を意味します。
デジタル社会で頑張るあなたの健康を守りたいという願いを込めています。



● アシードアスターTVCM
(2021年7月～8月放送)

「アシードアスター 瀬戸内レモンのチューハイ」の発売に
合わせ、TVCMを広島県内で放送しました。



● アシードアスター お絵描きムービー

アシードホールディングスHPよりご覧いただけます。



● Instagram活動強化

アシードホールディングスのInstagramアカウントを
2021年に開設しました。
アシード商品の紹介や就活生向けの情報などを発信して
います。



@aseed_hd
(企業アカウント)



@aseed_jp
(商品アカウント)



●新ブランドPrie（プリエ）がスタートしました。



当社グループで今後開発していく人々の心と体の健康を願う商品に、Prie（プリエ）というブランドを付けることにしました。

「Prie」（プリエ）はフランス語の「Prier（願う、祈る）」に由来します。

筆記体 i の上には私達の企業理念でもある「明日(A)へ向けてまく種子(SEED)」をイメージして、新芽のデザインをあしらいました。

●ためして寒天ダイエット レモン・ぶどう (2022年4月9日発売)

グループ会社の宝積飲料株式会社にて17年前から販売されていた「ためして寒天ダイエット」を新ブランド「Prie」（プリエ）でリニューアル販売しました。

お子様からご年配の方まで人気のぶどう風味も追加しました。



●グアバ茶 (2022年4月29日発売)

強い抗酸化作用を持つタンニンやケルセチンなどのポリフェノール、ビタミンB・C・E、β-カロテンが豊富に含まれるグアバの葉や実を使用したお茶です。

毎日の食事のお供に、飲みやすい味に仕上げました。



● 連結子会社間の合併の目的

【効率的かつ筋肉質な経営基盤の確立】

・取り巻く環境の変化や将来を見据え、自販機の運営を行う2社を統合し、システムの統合、本社部門の統合等、合併による合理化策を実行することで、効率的かつ強固な経営基盤を再構築します。

【営業力の強化+M&Aの更なる推進】

・全国(青森から沖縄まで42拠点の販売ネットワーク)展開する独立オペレーターとして、飲料メーカーからオペレーションを任せられる強固な営業基盤を確立し、今後の業界再編のリーディングカンパニーを目指します。

・また、全国に展開する販売網を活用したウェルネス商品の拡販も行います。



2022年10月1日(土) 合併予定



● 合併当事会社の概況(2022年4月1日)

	存続会社	消滅会社
商号	北関東ペプシコーラ販売株式会社	アシード株式会社
本社所在地	群馬県前橋市元総社町 1-16-8	広島県福山市箕島町 5725-1
代表者	代表取締役社長 久保 一史	代表取締役社長 久保 一史
事業内容	自販機の運営	自販機の運営及び商品の 開発・販売
資本金	100,000千円	15,400千円
自販機運営台数	16,258台	10,864台

北関東ペプシコーラ販売株式会社を存続会社とし、アシード株式会社を消滅会社として吸収合併するものです。合併後は商号をアシード株式会社に変更し、本社を東京に移転する予定です。

商号	アシード株式会社 (旧北関東ペプシコーラ販売株式会社)
事業内容	自販機の運営及び商品の開発・販売
本社所在地	東京都港区芝1丁目6番10号 芝SIAビル2F(予定)
代表者	代表取締役社長 久保 一史(予定)
資本金	100,000千円

●前期のM&A実績

株式会社いいじまのグループ会社入り



会社概要

所在地：茨城県つくば市古来130-1

代表者：飯島 功光

事業内容：自販機運営事業、売店事業、菓子卸事業

先 数：自販機493台、売店運営10先

目的

- ・自販機運営事業を北関東ペプシコーラ販売(株)に移管（実施済）し、効率の良いオペレーションが可能
- ・アシードブランド商品の販路拡大
- ・売店事業は無人店舗化を指向し、グループの将来に向けた新しい収益事業づくりを進める

●当期のM&A

2022年4月、佐賀の自販機301台の営業権を譲受

今後もさらにM&Aを加速

●これまでのM&A実績(自販機運営は100台以上のみ)

買収年月	地域	自販機台数	買収形態	現在
1999.2	群馬	11,816	株式取得	グループ会社
10	福岡	639	株式取得	合併
2000.2	東京	896	株式取得	合併
11	広島	-	株式取得	グループ会社
2002.3	京都	250	営業権譲受	
7	宮城	1,993	株式取得	合併
2003.10	愛知	1,700	営業権譲受	
2004.4	青森	420	株式取得	合併
2005.9	石川	750	株式取得	合併
2008.11	青森	289	営業権譲受	
2009.7	広島	240	株式取得	合併
2010.1	青森	107	営業権譲受	
6	東京	389	営業権譲受	
7	青森	376	営業権譲受	
8	大阪	459	営業権譲受	
2011.4	広島	383	株式交換	グループ会社
2012.6	静岡	204	株式取得	合併
2018.12	大分	135	営業権譲受	
2019.3	和歌山	203	営業権譲受	
2020.10	福島	212	株式取得	2021.12 合併
2021.6	茨城	493	株式取得	グループ孫会社
2022.4	佐賀	301	営業権譲受	

	過去	新型コロナ前	新型コロナ後
自販機市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料販売の最大の販路(40%) ・設置先増加による売上拡大 ・定価販売が基本 	<ul style="list-style-type: none"> ・手売市場に逆転される(25%) ・コンビニとの競合、缶コーヒーの低下 ・メーカーの高止まり ・労働環境悪化の是正 	<ul style="list-style-type: none"> ・CSRの観点から、経済合理性のない自販機は撤去の方向 ・メーカーの適正化 ・無人店舗である自販機へのニーズは高まる ・食品・物販など飲料以外の拡大
飲料メーカー系列 オペレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・売場として設置台数拡大を推進 ・飲料メーカーによる独立系オペレーターの買収(シェア拡大) 	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料メーカー同士の自販機での相互販売 ・直営の一部エリアを独立系へ委託 	<ul style="list-style-type: none"> ・直営のオペレーター事業の見直し ・地域の独立系オペレーターとの連携 ・飲料メーカー同士の自販機事業再編
独立系 オペレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料メーカーの代理店として拡大 ・事業者数:全国500社以上 ・飲料メーカー無償貸与機でP/Mを無視した設置競争 	<ul style="list-style-type: none"> ・零細オペレーターの限界 ・人手不足による継続困難 ・創業者世代の事業継承が課題 ・事業者数:約125社 	<ul style="list-style-type: none"> ・オペレーター同士のアライアンスが加速 ・中堅以上の事業者数:全国30~50社に集約 ・飲料メーカー系列オペレーターとの提携
当社のスタンス	<ul style="list-style-type: none"> ・M&Aによってオペレーションの効率を上げ、収益性を改革 ・独立系NO1オペレーターを目指し、飲料メーカーとのWIN・WINの関係を構築 ・スマートストア、無人店舗など次世代の自販機モデルに挑戦 		



●宝積飲料株式会社 志和工場の製造設備更新 (約12億円)

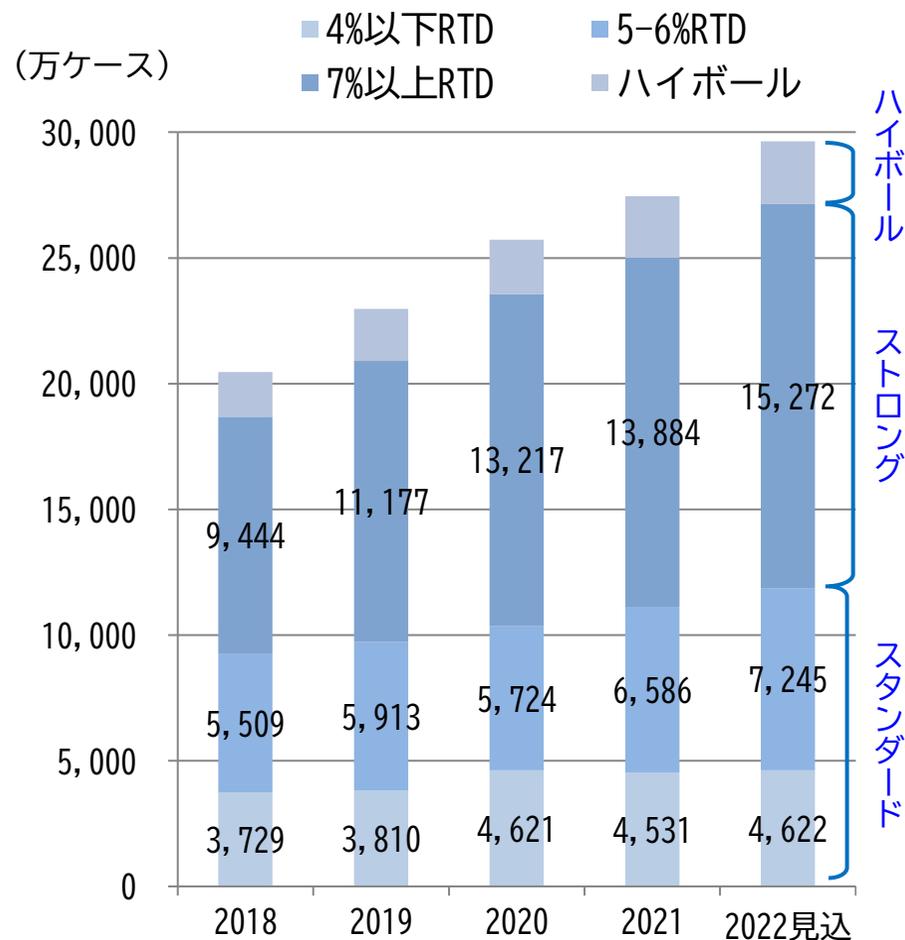
目的

- ・生産能力向上
現在の250ml缶に加え、190ml缶・350ml缶・500ml缶の充填も可能となり、缶・ビンの製造能力は年間200万箱から400万箱に向上します。
- ・アシードブリュー株式会社 宇都宮工場と東西2拠点で RTD等の製造を行うことで物流の平準化・効率化を図り、トラック輸送のCO₂削減に寄与します。

炭酸缶充填設備を環境に配慮した最新設備に更新 (2022年12月着工、2023年春稼働予定)



●RTD市場推移



出典：RTDに関する消費者飲用実態調査 サントリーRTDレポート2022 250ml*24本換算

●物価高騰への対応

足元の資材・原材料高騰、電力・燃料費の高騰、運送費の高騰など、飲料製造を取り巻くコストアップ要因が一番の懸案事項となっております。

- ・迅速な価格転嫁
- ・生産性の向上による製造コストの削減によって、収益アップを図ります。
- ・2023年1月にアシードブリュウ宇都宮飲料工場
で設備更新（約2.5億円）
パストライザー（殺菌装置）の更新等によって燃料費の大幅な削減と生産能力アップ



既存のパストライザー

●同業パッカーとのアライアンス強化

飲料製造事業の更なる成長を目指し、他の同業パッカーとのアライアンスを強化し、自社の製造ラインで製造できない製品を提携パッカーに製造委託することで、販路の拡大を目指します。



●新規事業への投資拡大

自販機リテール、飲料製造に続く第3、第4の柱となる事業の確立に向けて、2030年までに新規事業（食品製造など）への投資を加速させていきます。

●前期実施した投資

【会社概要】

ロジックイノベーション株式会社

所在地：岡山県岡山市南区浦安本町32-5

代表者：水元 英二

事業内容：納品代行・納品前作業代行・輸送業務・
海外輸出入業務

（倉庫を活用した物流のアウトソーシング・物流代行）



【目的】

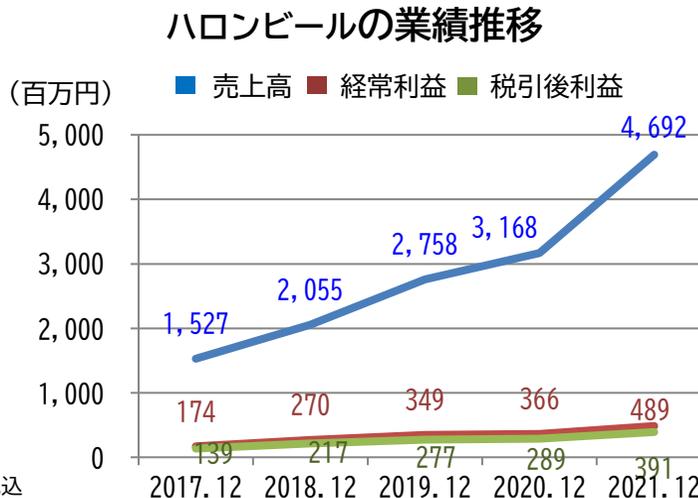
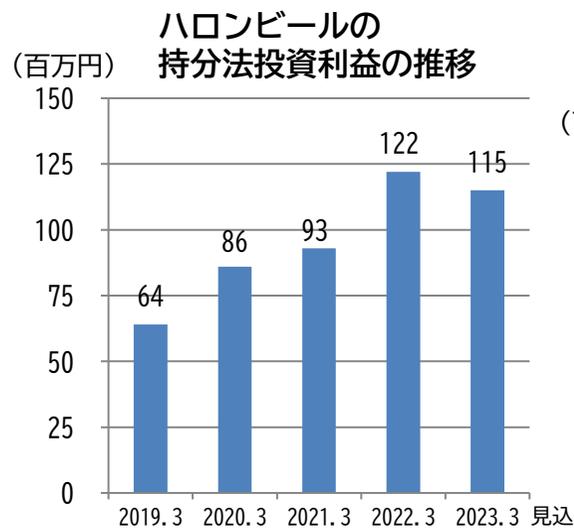
- ・物流事業の拡大
ロジックイノベーション(株)がこれまで培ってきたノウハウを生かし、アシードグループの全国ネットワークを活用しながら、より付加価値の高い物流サービスシステムを構築する
- ・2021年10月からアシードロジスティクスセンターの運営も担うことで、グループ内物流の効率化を図る

●海外事業への投資

ベトナム以外のASEAN諸国も含め、更なる投資先の獲得を目指す

●既存投資先のハロンビールの状況

HaLong Beer And Beverage Joint Stock Company に株式投資（出資比率は31.3%）飲料製造のノウハウと、ハロンビールの販売チャネルを相互利用し、ベトナム国内はもとよりASEAN諸国でビール・酒類及び清涼飲料市場を開拓



●ハロンビールの増益要因について

缶ビールの設備を増強し製造販売を強化。コロナ禍で生ビールの売上は落としたが、缶ビールの営業活動の強化による売上の伸びでカバーしている。売上高の増加に伴い利益も増加しているが、設備投資・原材料のコストアップ・販促などにより、収益性は低下傾向

持続可能な開発目標（SDGs）とは、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17の目標から構成されています。



世界を変えるための17の目標

当社グループでは、次のSDGs目標への取り組みを行っております。

●省エネ自販機の設置推進



・複数メーカーの自販機が並べて設置されている現状を見直し、複数メーカーの商品を取り扱う当社自販機1台に集約することで、消費電力の削減や景観に配慮する取り組みを進めています。



・最新式のハイブリッドヒートポンプ式自販機を採用し、消費電力の大幅削減を実現しています。



●飲料容器（缶・ペットボトル）のリサイクル



回収した缶・ペットボトルは、専門業者に依頼しリサイクルを進める取り組みを行っています。

●地域スポーツへの支援



・地元スポーツ団体や広島東洋カープの支援を行っています。

●茶殻を肥料の原料として有効活用



緑茶などの飲料を製造する過程で大量に発生する茶殻を、委託先企業で肥料の原料として有効活用ジャガイモなどの生産に利用されています。

●ヘルスケア商品の開発



高齢者や嚥下（飲み込み）困難者に対応した、低カロリーで美味しい水分補給用飲料などのヘルスケア商品を積極的に開発しています。



●太陽光発電の実施

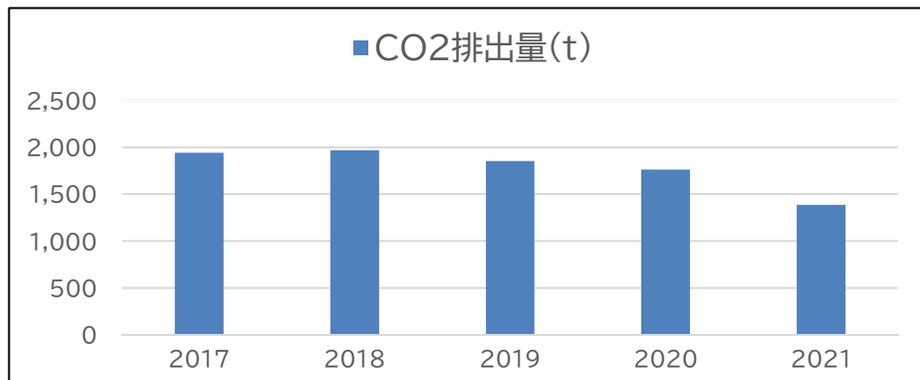


アシード株式会社 本社/福山支店に太陽光パネルを設置し、自販機100台相当の電力を発電しています。



●自販機運営リテイル事業

・CO₂排出量の削減(ガソリン・軽油)



ルート効率の改善による燃料使用量の削減により減少
2021年は新型コロナウイルス感染拡大による休業で大幅減少

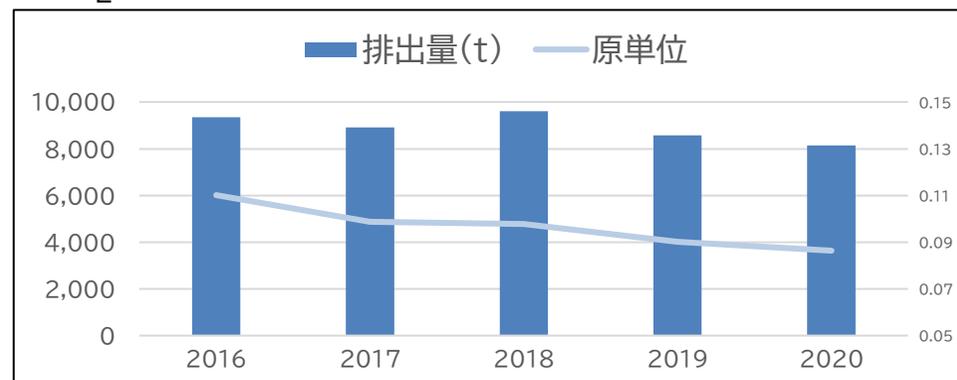
●その他事業

食品リサイクル法に基づき、食品製造や加工過程で排出される食品残漬などを受け入れ、乾燥処理により固形燃料(ペレット)や、肥料として再生する事業を行っています。



●飲料製造事業

・CO₂排出量の削減



・設備の更新等

2020年	アトーブリュー	炭酸ライン殺菌機、CIP機更新
2020年	宝積飲料	小型貫流ボイラー更新(3t×6基)
2021年	宝積飲料	倉庫屋根に太陽光パネルを設置し、製造ラインの一部で使用
2021年	アトーブリュー	コンプレッサーの高効率化
2022年	アトーブリュー	照明の60%をLED化



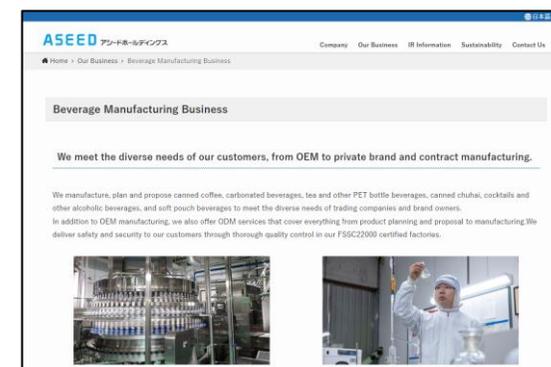
ヒートポンプ



高効率ボイラー

●取締役会のコーポレートガバナンスに関する最近の取組み

- 2021年1月 ・ 取締役会の任意の諮問機関として、指名報酬委員会を設置
 - ・ 社外取締役が指名報酬委員会の委員長に就任
- 2021年2月 ・ 取締役の選任に関する方針の決定
 - ・ 取締役の報酬決定に関する方針の決定
- 2021年5月 ・ 取締役会実効性評価を実施
 - ・ 政策保有株式の保有の適否検討
- 2021年6月 ・ 譲渡制限付株式報酬制度（RS）を導入
 - ・ 取締役8名のうち独立社外取締役3名の体制を継続
- 2021年6月 ・ サステナビリティ委員会の設置
- 2022年4月 ・ アシードHDホームページの英訳版公開開始
- 2022年5月 ・ 議決権電子行使プラットフォームの利用開始



本資料・IRに関するお問い合わせ先

アシードホールディングス株式会社

経営企画グループ 担当：川崎、右佐林、田中、岡崎

電話 : 084-923-5552

E-mail : kikaku@aseed-hd.co.jp

URL : <https://www.aseed-hd.co.jp>

【本資料の取扱上のご注意】

本資料に記載されている、当社又は当社グループに関連する業績予想・計画・経営戦略・方針などは、将来の見通しに関する記述であり、これらは、現在入手可能な情報にもとづく経営者の判断などを基礎としています。これらの将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要因の影響を受けるため、現実の結果が想定から著しく乖離する可能性がある事をご承知おきください。

また、当資料はあくまで当社を理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするものではありません。さらに将来の予測のみならず、過去の部分も含めて見直し等により予告なしに変更することがありますのでご注意ください。